

先日、経済協力開発機構(OECD)が行った学習到達度調査(PISA)の結果が公表され、日本は「読解力」に課題があることが明らかとなりました。また、「2009年と比較して、今回は、読書を時間の無駄と考える生徒が5ポイント増えており、男女とも読書が楽しいと答えた生徒は5ポイント減少している。平日に学外でオンラインを利用する時間数は3時間で、2012年の調査より2時間増加、週末では3.5時間増加した」との指摘もあります。

スマホが普及するようになってから文章を読む機会が減ってきました。電車の中でも、スマホを見ている人がほとんどで、雑誌や文庫本などを読んでいる人を見かけることはほとんどありません。ネット内の文章はというと、短文がほとんどで、一目で理解できる文言が重宝されているのです。

皆さんは人とのコミュニケーションをとるのは得意ですか？ 他人と話をするとき、よくその

## 本を読もう

教育長エッセイ

教育長  
みやざき いずみ  
宮崎 泉



人の話を聞き、その内容を理解することが必要です。将来社会生活において必要とされるコミュニケーション能力が劣っていれば相手との信頼関係が築けないことにもなってきます。また、国語ができなくても大丈夫という人もいます。しかし、文章を理解できなければ、他の教科の問題も読み取ることができません。さら

に、今世の中で起こっていることをテレビや新聞で正確に理解し、それらを他人に説明できるようになることも必要です。読解力を高めることによってそれらに必要な能力が培われるのです。では、読解力を磨くのはどうすれば良いでしょう。

やはり本を読むことだと思います。皆さんが将来、学校や社会で様々な知識を必要とする場面に遭遇したときに、ネットで解説や要約をコピーするのもひとつの方法です。しかし、そればかりではいつか化けの皮が剥がれてしまいます。自分が読書によって得た知識、広い語彙力はずっと身につくものです。色々なことの解決策も示唆してくれるかもしれません。どんな本でも大丈夫です。例えば漫画でも。とにかく一度手に取って読みかけてみましょう。そのための時間を確保しましょう。もちろん途中で投げ出しても良いじゃありませんか。読んだ分は自分の中に何かしら残ったはずですから。

### 県立高等学校における聴講生の受入れについて

本県では、一人一人の学びを実現する生涯学習の振興及び社会に開かれた教育課程の実現をめざし、高等学校の特定の科目について履修を希望する社会人を聴講生として受け入れています。令和2年度の各県立高等学校における聴講生の受入れ教科・科目などを、県教育委員会のホームページに掲載していますので、興味のある方はご覧ください。

なお、詳細については、各学校のホームページに「聴講生の募集に関する要項」が掲載されていますので、ご確認いただくとともに、ご不明な点があれば、各学校に問い合わせてください。



県教育庁県立学校教育課  
高校教育指導班  
☎073-441-3681

春休みは、  
企画展にGO!

## 展示・イベント

県立博物館 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8670

企画展『江戸時代の書』  
期 3月14日(土)～4月19日(日)

農民・町人にも書道教育の効果が及んでいた江戸時代における、きのくにの人々の書を紹介します。

書「眉壽(びじゆ)徳川治宝(とくがわはるとみ)筆



県立紀伊風土記の丘 和歌山市岩橋1411 ☎073-471-6123



春期企画展『埴輪と須恵器  
～きのくにの窯跡から見える古墳時代～』

期 3月21日(土)～5月10日(日)

古墳時代の代表的なやきものである埴輪と須恵器(すえぎ)について、古墳窯跡から出土した資料を紹介し、製作技法や生産体制などを考えます。

いずれも、休館日は月曜日(祝日の場合は翌平日)です。  
※県立博物館・県立紀伊風土記の丘・県立自然博物館・県立近代美術館は有料ですが、高校生以下・65歳以上・障害者の方は無料です。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

県立自然博物館 海南市船尾370-1 ☎073-483-1777



化石採集イベントの様子

巨大アンモナイトをさがせ!!

期 3月22日(日) ※事前申し込みが必要

湯浅町にある白亜紀の地層で、化石発掘!学芸員が化石の探し方をレクチャーします。1億3000万年前のアンモナイトやウニ、貝の化石を発見しよう!

県立図書館 和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9500



図書館バックヤード見学の様子

図書館バックヤード見学～親子の部～

期 5月5日(火) ※事前申し込みが必要(4月14日より)

【午前の部】10:00～11:10 【午後の部】14:00～15:10  
各10組(1組2～3人程度)

「こどもの読書週間」にあわせ、親子で参加できるバックヤード見学を行います。めったに見られない図書館の裏側をのぞいてみませんか?

県立近代美術館 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8690

照明機器改修工事のため休館いたします。  
工事期間：4月24日(金)まで  
LED化した新しい光で企画展「もようづくし」をお楽しみください。

企画展『もようづくし』  
期 4月25日(土)～6月28日(日)

染谷龍(そめやさとし)  
《緑鹿(サイクルジカ)》当館蔵



和歌山県教育委員会事務局 総務課 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 TEL:073(441)3641 FAX:073(432)4517

和歌山県教育委員会では、今回紹介した内容以外にも、様々な取組を行っています。詳しくは、和歌山県教育委員会のホームページをご覧ください。また、皆さまのご意見・ご要望をお待ちしています。

和歌山県教育委員会 検索

Wakayama  
Prefecture  
education public  
relations paper

第  
42号

令和2年[2020]3月  
和歌山県教育広報紙

# 輝く、紀の国の教育



第45回全国高等学校  
総合文化祭和歌山大会  
「紀の国わかやま総文2021」

..... P5

きのくにコミュニティスクール  
〈県立新翔高等学校〉..... P6

きのくに教育めぐり  
〈田辺市教育委員会〉..... P7

特集

プログラミングを学ぼう

## 「きのくにICT教育」

表紙写真:日高町立内原小学校  
プログラミング教育の様子





「きのくにコミュニティスクール」とは、学校運営協議会を設置した学校（コミュニティ・スクール）とそれを支える既存の「きのくに共育コミュニティ」等との連携・協働により、社会総掛かりで教育を実現する仕組みです。  
平成29年度から3年間で県内全ての公立学校に「きのくにコミュニティスクール」を導入します。県立学校は平成30年度に全て導入しました。



平成19年度に県下4校目の総合学科を設置し、幅広く「防災」「観光」「福祉」など特色ある科目を開講して、生徒の個性を生かした学習を行っています。  
昨年度「きのくにコミュニティスクール」を導入し、学校運営協議会の活動を中心に、広報活動の改善と行事内容の見直しを行っています。

## 地域とつながりの深い委員の方々に支えられて

学校運営協議会委員の方々は、本校出身者、地元の事業所経営者、商店街関係者、中学校長など地元地域とのつながりが深く、地域全体を何とかしようという熱い思いをもって来ています。今後の生徒数減少への危機感も学校と同じように抱いており、「新翔高校が今後どうあるべきか」について、自発的に協議会を開くなど、前向きに話し合っています。

## 「情報発信方法」を改善

学校は「色々な取組をしているのにあまり外部に知られていない」「情報発信力が弱いのでは」という意見が学校運営協議会から出され、「情報発信方法」に工夫を重ねてきました。

例えば、以下の改善を行いました。

- ① ホームページや学校新聞をカラーにし、学校新聞は近隣各中学校に送付して掲示を依頼
  - ② 学校紹介では、より学校の魅力が伝わるよう、インパクトのあるタイトルや動画を活用
  - ③ オープンスクールの体験講座一覧をさらに興味をひきつける内容に変更
- これらの取組の結果、今年度のオープンスクールや進学説明会は大変好評でした。



新翔マンスリー(一部)

## 中高の合同学校運営協議会を開催

「他校種の学校運営協議会の様子を知りたい」「新翔高校への意見や要望を直接受け取りたい」という意見から、委員の方に中学校への橋渡しを依頼しました。その結果、委員の方が関わりのある2つの中学校と合同学校運営協議会を開催し、中学校からみた本校の姿を知ることができました。

こうした活動の活性化は、以前から設置している中高連絡協議会にもよい影響を与え、出席者全員が発言することにつながるなど、今まで以上に充実した意見交換ができました。

今後は、さらに有効な情報発信・情報交換の方法、地域との交流の仕方を検討しながら学校運営に反映させていきます。



城南中学校との合同学校運営協議会の様子

# きのくに教育めぐり

## 田辺市教育委員会



世界遺産の關雞神社



## 植芝盛平翁から学ぶ、合気道の精神

今年度は、郷土の偉人である合気道の開祖、植芝盛平翁没後50周年の年にあたります。

市内の中学校では、体育の授業で合気道を行う学校が増え、現在6校が取り組んでいます。田辺道場の先生に協力していただき、合気道の実技だけでなく、盛平翁の生涯や合気道の精神も学んでいます。合気道は、強さや勝敗を競うものではなく、心と体の調和を重んじ、人間としての向上を目指す武道だといわれています。

現在田辺市では新武道館の建設(今年10月開館予定)を行っており、館内には盛平翁の足跡と功績を顕彰する施設を設けることが決まっています。



中学校での合気道の授業



完成予定の新武道館

## 教育長挨拶

田辺市教育委員会 教育長 佐武 正章

田辺市は平成17年5月に5市町村が合併し、近畿地方で最も大きな面積を有する市になりました。この広大な市の中には、美しい山、川、海の大自然をはじめ、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」である熊野古道をはじめ、古い歴史や文化、郷土の偉人など、たくさんの地域資源があります。

田辺市ではキャッチフレーズを「未来へつながる道 田辺市」と掲げ、この地域資源を生かし、ふるさと学習、学社融合推進事業、田辺市地域語り部ジュニア活動などを通して、子供たちの未来につながる資質や能力の育成を進めているところです。

## 田辺市地域語り部ジュニア活動

「自分のふるさとに誇りや愛着を持ち、胸を張って語れる子供を育てたい」これが「田辺市地域語り部ジュニア活動」の目標であり、願いです。

市内の小・中学生が、世界遺産である熊野古道や關雞(とうけい)神社をはじめ、地域の名所・旧跡や産業などについて学び、その内容を広く発信する『田辺市地域語り部ジュニア活動』を実施しています。

子供たちは、地域の方や保護者から地域にまつわる話を教えていただき、学んだことを小学生は日本語で、中学生は英語で語り部活動や発表を行っています。今後もこの活動を通して、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる子供の育成をめざしていきたいと思ひます。



田辺市地域語り部ジュニア活動(熊野古道にて)



# 東京2020オリンピック聖火リレー

※詳しい情報は、ホームページをご覧ください。  
オリンピック聖火リレー和歌山県

実施市町 **新宮市** **那智勝浦町** **串本町** **白浜町**  
**田辺市** **御坊市** **有田市** **海南市・和歌山市**  
セレブレーション会場 **和歌山マリーナシティ第1駐車場**

実施市町 **和歌山市** **岩出市** **紀の川市**  
**かつらぎ町** **高野町** **橋本市**  
セレブレーション会場 **橋本市運動公園多目的グラウンド**



## 高校生の皆さんへ

### 奨学金・給付金等のお知らせ

和歌山県では、高校生の皆さんが安心して学べるよう、次のような奨学金や給付金の支援制度があります。

- 安心して高等学校等で学ぶために**
  - ① 高等学校等就学支援金  
公立高等学校の授業料(私立は授業料の一部)の負担が不要となります。
  - ② 高校生等奨学給付金  
通学やクラブ活動等に必要の費用を給付します。
  - ③ 修学奨励金(奨学金)  
高等学校等で学ぶための費用を貸与します。(無利子貸与)
- 安心して大学等へ進学するために**
  - ④ 大学生等進学給付金  
大学卒業後に和歌山県に居住する者に年間60万円を4年間給付します。(選考検査有り)
  - ⑤ 修学奨励金(進学助成金)  
大学等に進学するにあたり転居が必要な者に一時金を貸与します。(無利子貸与)

- 問い合わせ先
- ① 公立 県教育庁総務課振興班 …… ☎073-441-3642
  - ② 公立 県教育庁生涯学習課奨学班 …… ☎073-441-3663
  - ③~⑤ 県教育庁生涯学習課奨学班 …… ☎073-441-3663
  - 私立 県文化学術課学術振興班 …… ☎073-441-2108
  - 私立 県文化学術課学術振興班 …… ☎073-441-2098





ドローンプログラミングの様子

## 企業等と連携したICT教育 (部活動等への指導者派遣)

2018年度から、ICT人材の育成強化のため、中・高等学校のICTに取り組む課外活動(パソコンクラブ等)に、県内外のICT関連企業などの技術者や専門家を指導者として派遣しています。

急速に発展する高度情報化社会において、今後、より専門的な知識や技術が求められることを見据え、コンピュータやプログラミングなどに関心のある生徒の能力を伸ばすことにより、将来、ICT分野でリーダーとなり得る人材の育成をめざしています。



オリジナルAIスピーカーへのプログラミングの様子

この取組は、授業で学ぶプログラミング教育のステップアッププログラムと位置づけており、これまでに16校の中・高等学校に指導者を派遣し、AIスピーカーの開発やゲーム制作など、高度な知識や技術の習得を支援しています。

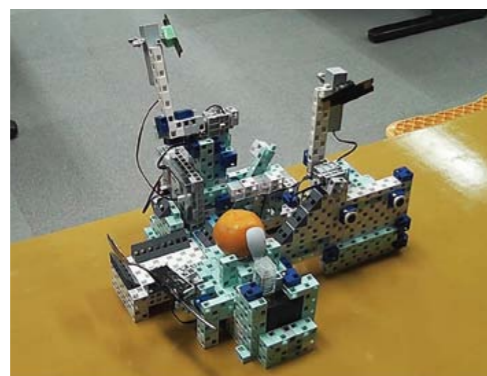
## きのくにICTプログラミングコンテストを開催!

児童生徒のさらなる学習意欲の向上を図るため、「きのくにICTプログラミングコンテスト Switch Up WAKAYAMA 2019」最終審査会&表彰式(主催:和歌山県、和歌山県教育委員会)を開催したところ、多くの一般来場者や協賛企業の方などにお越しいただきました。

最終審査会では、国内外で活躍されている有識者や企業の方を審査委員として招き、一次審査を経て最終審査に進出した児童生徒が、自らプレゼンテーションを行い、自らの作品の出来映えを競い合いました。

来年度も実施予定です。多くのご参加をお待ちしています!

### ■ コンテスト応募作品



「有田みかんを全世界にPRしよう」

▶ 有田市立保田中学校

ロボットに「ありだむき」をさせようとした作品。「ありだむき」をしやすい「ありだむきロボット」をロボットキットで制作。



「白浜と有田みかんをゲームでPR!」

▶ 和歌山市立西脇中学校

前から流れてくるみかんをとりながら、白浜のテーマパークに向かうゲーム。



最終審査会&表彰式の様子は、こちらから▶



## 届けよう 和の心 若葉が奏でるハーモニー

全国高等学校総合文化祭は、「文化部のインターハイ」とも呼ばれる高校生による国内最大規模の芸術文化の祭典です。

古来より神々が鎮まる神聖な場所・紀伊山地が広がるこの和歌山の地に、全国・海外の高校生たちが集い、様々な文化活動を展開します。

**開催時期** 令和3年7月31日(土)~8月6日(金)

**開会行事** 総合開会式、パレード

**開催部門** 規定部門(19部門)、協賛部門(3部門)

**国際交流事業** 海外から高校生を招へいし、総合開会式への参加、開催県高校生との文化交流等を実施

### 生徒企画委員会

県内高等学校の生徒39名が生徒企画委員として、5つの部会(総務・総合開会式・パレード・広報イベント・国際交流)に分かれ、和歌山らしいおもてなしの企画、開会行事、PRイベント、海外招へい校との交流など、大会の企画・準備を行っています。



### 500日前大会PRイベント

**日時** 令和2年3月15日(日) 13:00~15:00

**場所** 和歌山駅西口地下わかちか広場



県内高等学校文化部のステージ発表や楽しい体験ブースもあります。高校生だけでなく大人から子供まで楽しめるので、ぜひお越しください! 大会マスコットキャラクターさいちゃんも登場!

## 紀の国わかやま総文2021の開催をきっかけに、活動の盛り上がっている部活動を訪問しました!

### 県立向陽高等学校 新聞部



#### Q.どんな活動をしていますか。

**A** 向陽高等学校新聞部は、今年度から1年生12名で活動しています。学校行事の取材や開智高校との合同取材で技術を磨いています。夏休みにはテレビの情報番組にも出演させていただきました!

#### Q.本番に向けての抱負を聞かせてください。

**A** 最近では、新聞制作力、チームワークの向上を実感しています。紀の国わかやま総文2021でも、個性の強さと部員の仲の良さで大会を盛り上げます!

#### Q.最近の様子を教えてください。

**A** 智辯学園和歌山高等学校小倉百人一首かるた部は、現在、高校生が4人、中学生が10人で活動しています。最近では県内の学校にかかるた部が増えてきて、紀の国わかやま総文2021に向けて活動の幅も広がってきています。

#### Q.競技かるたについてPRをお願いします。

**A** 「ちはやふる」の影響もあり、全国的に競技人口も増えてきている競技かるたですが、格闘技と言っても過言ではないくらい、緊迫した熱い戦いが繰り広げられます。そんな競技かるたをみなさんもやってみませんか?



### 智辯学園和歌山高等学校 小倉百人一首かるた部



# プログラミングを学ぼう「きのくにICT教育」

## プログラミング教育がスタート!

プログラミングとは、コンピュータやロボットなどの情報機器を作動させるための命令をすることです。

近年、AIやIoT※1などの情報技術の進展が著しく、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しています。そのような社会で活躍できる人材を育成するには、情報活用能力や論理的思考力などを育む必要があります。和歌山県では、「きのくにICT教育」として、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校で体系的なプログラミング教育を今年度からスタートしました。

※1 IoT…Internet of Thingsの略。様々なモノに通信機能をもたせ、これまでインターネットにつながっていなかったモノをインターネットにつなぐこと

## 学校の取組

### 1 体験期

#### 小学校の取組

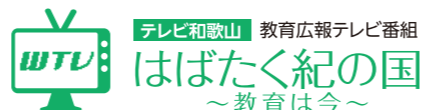
小学校の段階をプログラミング教育の「体験期」として位置づけています。

小学校では、各教科の授業の中で、コンピュータに計算をさせたり、図形を書かせたり、ロボットキットを作動させたりするプログラミングの体験を通じて、各教科の学習のねらいを達成していきます。

授業を通して、身の回りにあるプログラムで制御されているものの仕組みを学び、身近なコンピュータなどについて意識していきます。



総合的な学習の時間でロボットカーのプログラミングをしています。設定された目標地点にたどり着くために必要なモーターを動かす時間、タイヤの曲がる角度やタイミングなどを考え、目的どおり作動するように試行錯誤しながら、プログラミングを学んでいきます。



児童・生徒の発達の段階に応じて開発した県独自のカリキュラムに沿って行われている「きのくにICT教育」。その取組について動画で紹介していますので、ぜひご覧ください。

右記QRコードから番組を視聴することができます。



プログラミング教育で育む次世代の力  
～きのくにICT教育～



### 2 基礎期

#### 中学校の取組

中学校の段階をプログラミング教育の「基礎期」として位置づけています。

技術・家庭科(技術分野)の授業で、小学校での体験を踏まえ、ビジュアル言語※2を用いてプログラミングの基礎について学び始めます。

地域や社会の課題について考え、プログラミングを用いて課題を解決しようとする力を育成するとともに、プログラミングの基礎を身につけていきます。

※2 ビジュアル言語…絵や図で表された命令を組み立てて、プログラムを作成する言語の総称



小型コンピュータボードやロボットキットなどにプログラミングを行い、思った通りに作動するように制御することや、コンピュータネットワークやセンサーの仕組みなどについて学習しています。



#### 学校のICT化が加速

今後、小・中学校では、1人で1台のパソコン(PC)を使える環境が整備されていきます。高等学校においても、3人で1台使える環境を整備します。

### 3 応用期

#### 高等学校の取組

高等学校の段階をプログラミング教育の「応用期」として位置づけています。

小・中学校で学んだことを活用し、共通教科情報科の授業で、社会で一般的に利用されているテキスト言語※3によるプログラミングを学びます。

自らプログラミングを行い、試行錯誤しながらアプリを制作する活動を通して、情報活用能力や論理的思考力を育成します。

※3 テキスト言語…文字や記号を用いてプログラムを作成する言語の総称



スマートフォンなどのタブレット端末で作動するアプリの制作をグループで行っています。サンプルアプリを作り変えたり、アプリを自主制作したりすることで、テキスト言語の基礎を学んでいます。

## 教員研修

プログラミング教育を円滑に進められるよう、教員研修を実施しています。

小学校では、授業で用いるソフトウェアやロボットキットなどの操作説明や体験、中学校では、技術科の担当教員を対象にロボットキットの制御などの授業について研修を行っています。

高等学校では、情報科担当教員へプログラミングによりアプリを制作する研修を実施しました。

教員もプログラミングについて深く学び、未来を拓く子供たちが必要とする力の育成に向けて、指導力に磨きをかけています。



次ページへ続く